

NPO法人 要約筆記しものせき

妨げになることもありません。「要約筆記の利用にあたっては、利用者の負担もありません」と話すのは、会員の松尾優子さん。中途失聴という、人生の途中から耳が聞こえなくなった人にとって、要約筆記は、なくてはならない大事なコミュニケーションの手法なのです。

第3者の立場で正確に伝える

平成4年に20人で始まった同会には、現在、43人が在籍しており、要約筆記者の「派遣事業」と「養成講座」の2つを軸に活動を展開しています。「派遣事業」では、利用者からの依頼によって要約筆記者を派遣しています。活動の場は実にさまざまで、個人が病院の先生と話すときをはじめ、大人数が集まる敬老の日記念式典などの大きな会場にも対応しています。

「聴く」って声だけだと思ってしまう。声を文字に「書く」ことで「目で聴く」ことができます。要約筆記しものせきの皆さんは、手話知らない難聴の方や高齢で耳が遠くなった方など文字に頼る方のために「書く」ことで会話などの大事な架け橋として活躍しています。

要約筆記は、誰のため？

耳の遠い人に言いたいことがなかなか伝わらず、もどかしい思いをしたことはありませんか。会では、難聴の方をはじめ、難聴の方とコミュニケーションを取りたい方のためにも「耳代わり」となり、伝えたい思いを文字にしています。

例えば、難聴の方が生け花などの稽古で先生の指導を受ける時など、要約筆記者が「書く」ことで、稽古の流れを乱すこともなく、一緒に指導を受けている他の方への

「養成講座」は未来の要約筆記者を育てるための講座です。要約筆記の方法には手書きとパソコンがあります。今年度はパソコンで実施。難聴の方から、聞こえなくて困ったことや、聞こえる人に望むことを直接聞くことで、現状を把握しながら理解を深め、皆で助

け合って、その場の話を「文字」にするために励んでいます。

聴きたい気持ちは、みな同じ

難聴と一言で言っても、聞こえる程度や聞こえ方、聞こえなくなった時期など、状態はさまざまです。「『本場に役立っているのか』と常に振り返りながら、『書いて伝える』ことで何とか助けになればと願っています」と、会全員の思いを代表して話したのは、理事長の相沢昌幸さん。「要約筆記のことをもっと広く皆さんに知っていただき、どんどん利用してほしいです。そして一人でも多くの方にぜひ要約筆記者になってほしいです」という願いを胸に、今日も架け橋となっています。

- ①スクリーンだけでなく、手持ちのタブレット端末とも連動して、文字を見られるようにしています。
- ②要約筆記しものせきと下関市中途失聴・難聴者協会の皆さん。理事長の相沢さんは、真ん中の列・左から3番目。
- ③大きな会場での要約筆記は、4人1チーム(2人ペアが2組)で動きます。
- ④書く時間を省略するための「全国標準略号・略語」(一例)。



同会のホームページは「要約筆記しものせき」で検索できます



要約筆記の利用を希望する方・興味のある方
お気軽にご連絡ください
相沢理事長(☎兼用) 083-253-1517

- ④ 全国標準略号・略語
- | | |
|--------------|---------|
| 難聴…+ | 要約筆記…ヨ |
| 健聴…ケ | 手話…手 |
| 聴覚…チ | 補聴器…ホ |
| 障害…シ | 福祉…フ |
| ろうあ…ろ | ファックス…F |
| 中途失聴 | …中失 |
| 磁気誘導ループ…ループ | |
| コミュニケーション…コミ | |
| ボランティア | …ボラ |
- 地域略号・略語

このコーナーでは市内で頑張っている人や団体を紹介します。